



第32回 全日本中学生水の作文コンクール
和歌山県入賞作品集

あ い さ つ

水は、あらゆる生命を支えるとともに、私たちの暮らしや、農業、工業などの産業活動を支えている限りある貴重な資源であります。一方、近年では、世界的に渇水、洪水が頻発し、水利の安定性や安全で良質な水資源の確保が重要な課題となっております。その「水」への理解を深めていただくため、八月一日を「水の日」と定めその後の一週間を「水の週間」とし、全国で様々な行事が実施されています。

和歌山県としても、限りある貴重な水資源を未来へ引き継ぐため、次世代を担う中学生を対象とし、日常生活での体験や両親、先生から学び聞いた話などをもとに、「一度水を見つめる啓発活動として、昭和五十四年度から「全日本中学生水の作文コンクール」を実施しております。

今回は、県内から八三七編の応募をいただきました。「水について考える」というテーマにふさわしく、日常生活を通じて水について感じたことや、水を大切に思う思いを表現された作品がたくさんありました。

このたび、入賞作品十八編を作文集にまとめましたので、ご一読いただき、家庭や学校において、限りある資源である「水」について、関心を高め理解をより深めていただくことを願っています。

最後に、本コンクールに応募された中学生の皆さんとご担当いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。

平成二二年八月五日

和歌山県企画部長 柏原康文

優秀賞

「川を大切に」

(中央コンクール入選)

近畿大学附属和歌山中学校

一年

坂田 幸久

・
・
・
1

命の流れ『永遠に』

和歌山県立向陽中学校

二年

上村 麻美

・
・
・
3

世界の水を大切に

海南市立巽中学校

一年

吉田 彩夏

・
・
・
5

入選

水との共生

近畿大学附属和歌山中学校

二年

有馬 瑞穂

・
・
・
7

「水の循環。私にできること。」

和歌山県立向陽中学校

二年

岡村 美悠

・
・
・
8

大切な水

近畿大学附属和歌山中学校

三年

下村 恵美

・
・
・
9

川と蛍について

海南市立巽中学校

二年

大田 萌美

・
・
・
10

私たちにとって大切な水

近畿大学附属和歌山中学校

三年

田中 希佳

・
・
・
11

水不足などの環境問題

近畿大学附属和歌山中学校

二年

谷垣 南帆

・
・
・
12

佳
作

大切な水

和歌山県立田辺中学校

一年

中川 朔良

・
・

13

その水、大丈夫？

海南市立巽中学校

一年

中嶋 英二

・
・

14

「地球市民が地球を守る」

近畿大学附属和歌山中学校

二年

堀口 彩佳

・
・

15

守りたいもの

近畿大学附属和歌山中学校

三年

三浦 雛

・
・

16

「身近だけど大切なもの」

近畿大学附属和歌山中学校

一年

池田 奈瑚

・
・

17

命をつなぐ水

近畿大学附属和歌山中学校

二年

小出 成実

・
・

18

水不足を防ぐために

和歌山県立桐蔭中学校

一年

瀬戸 千裕

・
・

19

「これからの水」

田辺市立上秋津中学校

三年

西中 亮人

・
・

20

どの国にも大切に貴重な水

近畿大学附属和歌山中学校

三年

野間 俊亮

・
・

21

(掲載順序は五十音順です。)

優 秀 賞

(中央コンクール入選)

「川を大切に」

近畿大学附属和歌山中学校 一年

さかた ゆきひさ
坂田 幸久

僕は毎日学校まで自転車で通っています。通学の途中紀の川を渡ります。紀の川は、日本の中でも雨の多いといわれている大台ヶ原を水源に、昔から変わることなく流れています。紀の川を力強く、そして美しく流れる水は、僕たちのくらしをささえ、心にうるおいをあたえてくれています。僕たちは、どんなことに気をつけたらこの美しい川の流れをいつまでも守っていくことができるのだろうか。

自然がいっぱいの紀の川。紀の川には約百五十種類ものたく

さんの生物がすんでいるそうです。アユやハゼなどの魚類をはじめ、水辺のヨシやヤナギの群落、草むらや水中にくらすたくさんの昆虫類、川原では渡り鳥の姿も見られます。しかし、川のまわりに多くの人がすむようになり工場などができて産業が発達するようになったため、昔とくらべると川の水も汚れてきたと言われています。

川は、自然に水をきれいにする働きをもっています。でも、それは川に流れこむよごれた水がわずかであった時代のことです。川自身が水をきれいにする力にも限りがあります。水がよごれると自然の生物が少なくなり、また、いこいの場として親しまれている水辺はなくなってしまいます。そして、そのよごれた水を飲み水として使わなければなりません。

川のよごれのおもな原因は、食べ残しや食用油、洗剤などみんな家庭から出る「生活排水」だということを知り、僕はとてもおどろきました。僕たちは毎日台所仕事や洗たく、風呂、トイレなどでたくさんのお水を使いよごれた水を流しています。川をよごさないためにみんなができることで最も身近なことは、家庭から出るよごれた水をできるだけ少なくすることだと僕は思います。自分ひとりくらいなら大丈夫という気持ちがありますま

す川をよごしてしまいます。食器洗いの前に、油やよごれをふきとり、食べ残しは流さないように注意したり、洗剤は使いすぎないよう適量に。米のとき汁は植木の水やりに利用するなど、日頃のちょっとした心づかいや工夫が川のごれを防ぎます。

みなさんは、魚がすめるくらいの水にもどすためにどのくらいきれいな水が必要なかを考えてみたことはありませんか。ラーメン一ぱいの汁（二百ミリリットル）では、浴そう三・五はい分の水。牛乳コップ一ぱい（一八〇ミリリットル）では、浴そう九はい分の水。使ったあとの天ぷら油（五百ミリリットル）では、浴そう三百三十ぱい分の水がいるそうです。よごれた水を流さない。川にゴミを捨てない。毎日の生活の中で自分ができることからまず、実行していくことが大切だと僕は思います。

ひとりでも多くの人に川の大切さを考えてもらうこともとても必要なことだと僕は思います。毎年、地域の人たちと協力しながら行われている「紀の川クリーンキャンペーン」では、川の大切さを伝える「カップの紙芝居」や、川にすむ生物を観察して水質を調べる教室が開かれたりしています。また、大人も子供もいっしょに河川敷のゴミ拾いをするなど、「川をきれいにしよう」「川とのふれあいを深めよう」とさまざまな取り組みがされています。

川はみんなのいこいの場であり、遊びの場であり、自然を学ぶ場だと僕は思います。

そして、僕たちのくらしになくてはならない命の水です。これからもずっと美しい川の流れを守っていくことが僕たちの大切な役目だと思います。

優 秀 賞

命の流れ『永遠に』

和歌山県立向陽中学校 二年

うえむら まみ
上村 麻美

川は地球の血管と言えるだろう。それは、川の水が海に流れて海水が蒸発して雲をつくり雨を降らし川へ戻っていく循環通路の役割をしているからである。もし川が汚染されて有害物質が流れれば、血液が汚れたときと同じように多くの異常が発生するだろう。なのに、川などが汚染された地域が多くあるという現実にとても悲しく感じる。

私は夏休みにとある実験を行った。『植物はどんな水がよく育つのか』という興味から『近所の川の上流・中流・下流の水

と水道水でカイワレ大根を水以外同じ条件で十日間育てる』という実験だ。予想では『下流（かなり汚い）の方が枯れるに決まっている。もともと自然界にない有害物質が入っているのだから。』と考えていたが、結果は予想とは悲しいほど反対になつてしまった。なんと、上流の水で育てたカイワレ大根が枯れたのだ。それどころか、下流の水で育てたそれが異常に育ちすぎてしまった。私は困った。環境の授業で取り組んでいる実験なのに『下流の水が最もよく育ちました。』と言うような結果を残したら、どういうまとめにしたいのか想像がつかない。私の調査計画の筋書きが狂ってしまったようなものだ。

『川に油や洗剤などを流すのはやめよう。』というまとめにしようと思っていたのに、これでは『汚い水の方がよく育っているんじゃないか！』と言われてしまう。最後まで自分だけで調査しようと考えていたが、さすがに父の助けをかりることにした。父には、実験結果を言って少し話し合いをすることになった。そこで、意見がまとまった。

父とお互いの意見を話し合った末『有害物質の入った水を含んだ動植物がどうなるかの責任はとれない。もし、それらを含むことで食物連鎖が崩れたら大変なことになる。』ということ

になった。このようなことが原因のエチゼンクラゲの大量発生やイタイイタイ病等の公害病の例もあげられる。この実験をして『一人ひとりが有害物質を家庭から川などに出来る限り流さないように気をつかわなければならない』ということが分かった。

ところで、この実験をして一つ悲しいことが分かった。実験を行った近所の川である山田川の下流は、川底のダイオキシン（有害物質の一つ）類の濃度が日本一高いらしいのだ。こんなに、身近にある川が有害物質であふれていると思うと悲しいし恐ろしく感じる。そして、私達がどれだけ山田川に悲鳴をあげさせているのかが身にしみて分かることとなった。川を大切にしなければならぬが人間がいくら家庭排水に気をつかったとしても限界があるというのも事実であり、昔のように自然に浄化される排水しかなかった時代にもどすこともできない。浄化槽や下水道の設置も待たれるが、私が実験をして分かった『カイワレ大根は下流の水がよく育つ』ことを『汚水をろ過する（下流の水を吸収して体内に有害物質を蓄積する為）』というように受け取れることを活かし、カイワレ大根のような汚水を浄化させる作用のある植物の繊維を集めて生きたフィルターを作り川の各所に配するの、より自然にできる一つの

方法ではないだろうか？確かに難しい話だが可能性がゼロというわけでも無い。

私は、まず、川を守るために、必要以上の洗剤を使うのをやめようと思う。そして、川が出来る限り悲鳴をあげないようにしようと思う。血液が汚れないように。川から始まる命が永遠に続くように……。

優 秀 賞

世界の水を大切に

海南市立巽中学校 一年

よしだ 吉田
あやか 彩夏

水は、身の回りのあらゆる場面で使われている、身近なものです。例えばトイレやお風呂、洗たくに使われています。そして、何より飲み水は人間の体に、欠かせないものです。毎日の生活をふり返ってみると、水がいかに大切かがわかります。私たち日本人は、水道のじゃ口をひねるだけできれいな水が手に入ります。けれども、世界には深刻な水問題をかかえた国があります。

アフリカの南部では、子どもたちの四三%が不衛生な水を飲

んでいます。さらに、五人にひとりが十五歳になる前に亡くなっているそうです。また、アフリカのある国では大変な水不足になっているそうです。私と同じ年の十二才の女の子は、炎天下を毎日往復二時間、村に一番近い井戸まで水汲みをしなければならぬのです。しかも、十分な水が手に入らず、学校に行っても勉強に集中ができませんのです。

この例のように、私たちと同じ年頃の子が水問題で苦しんでいることがわかりました。そして清潔な水をありがたく感じ、大切にしようと思いました。

私たちが水のためにできることは、まず水を汚さないようにすることだと思います。具体的には、お皿についた油やソースを、ふき取ってから洗うこと、洗剤の使用量を減らすことです。

日本の食料自給率は四〇%で、六〇%は輸入しています。食料自給率も、水に大いに関係があります。ハンバーガー一つ作るには、二四〇〇㊦もの水が必要です。牛を育てたり、野菜・穀物を作ったり、材料を育てるにはこれだけの水がいるのです。二四〇〇という数字は、とても多いです。つまり、食料を多く輸入することは、水も膨大に輸入することにつながるのです。日本で一年間に出る残飯の量はなんと百万トンです。これは、世界の水を無駄づかいしているということです。水が十分にな

い国もあるにも関わらずです。これは、絶対やめなければいけないと思います。家族の食事がばらばらだと、残飯が出やすいです。だから、家族みんなで食事することも水のためになると思います。また、食べ物の好き嫌いをなくすことも大切です。

このようなことを、一部の人だけが実践しても、水に与えるえいきよは小さいです。ですが、多くの人が実践していけば大きな力になるはずで、実現させるには、多くの人が水に関心を持つことが必要だと思います。私は市や町が、皆が水に関心を持つように市報などで宣伝すれば良いと考えました。地球温暖化防止の記事はよく目にするけれど、水に関する記事はあまり見かけないからです。

このようなことからふだんからもっと、水に関心を持って生活しようと思いました。そして、水の無駄づかいはせずに、きれいな水を守っていきたいです。家族や友達にも水の話をし、一人でも多くの方が水を大切にするようにしたいです。

水との共生

近畿大学附属和歌山中学校 二年

有馬 ありま 瑞穂 みずほ

私達の生きているこの地球で大切な財産である水。私達の生活には必要不可欠のものです。

朝起きると、まず一杯の水から一日が始まります。朝食、洗面、お弁当作り、洗たく、清掃・・・。水と人間の生活は、切っても切り離せないものです。

私は毎朝、学校に行く途中にある紀の川を目にします。その流れはゆるやかで、落ち着いた水のたたずまいです。

その水は静かに、紀伊水道に、そして太平洋に流れています。

私達の身近にもある水。思いおこしてみると、景勝地といわれる風景にも、水が織りなす場所が多いように思います。

地球の、70%が海を占めていることからあたりまえかもしれませんが、

静かに、ゆったりと人間に沿うように存在してきた水が、突然その水をかえる事件が最近多くなったように思います。

例えば、2004年におこったスマトラ島沖地震による、津波の映像はとてもショッキングなものでした。これは、スマトラ島北西沖のインド洋で、マグニチュード9.3の巨大地震が発生したことにより、約9500mの帯状の海域にわたる海底約4000mの場所で、津波が発生したものです。インド洋沿岸に平均で高さ10mに達する津波が数回押し寄せ、さらに震源の東側タイのプーケットに津波が到達したのは、地震発生から約二時間三十分後でした。

この津波の恐ろしさは、1mあたり4トンの圧力で、一瞬のうちに家屋を流す威力だったそうです。

この時の巨大地震は、地震による直接的被害に加え、同時に引き起こされた大津波により、30万人を超える死者・行方不明者と、約500万人の被災者を出す大災害となった。被害総額は9億7700万ドルに達したと推定されています。

このニュースを見聞きしながら、私は二年前に知った「稲むらの火」のことを思い出していました。「稲むらの火」とは、和歌山の広川町に安政地震津波の襲来時、濱口梧陵がいち早く異常に気づき、稲むらに火を放ち、この火を目印として村人を誘導して多くの村人の命を救った実話に基づいているものです。その後、梧陵は被災民救済と復旧に尽力し、100年後の津波に備えるため巨額の私財を使つて、長さ600mの大堤防を築いた。その大工事に村人を雇用することで、津波の被害にあつた広村は奇跡の復興を遂げられました。

今、私達の暮らしている時代は文明が発達し、科学も進んでいます。それにも関わらず私達の生きている現代社会は、たった一人の人間の知恵と機知に全くなわらないのです。

ちょうど今、上海で「上海万博」が開催されており、日本館はロボットをたくさん置いています。

確かに、ロボットなどそれを作るための科学技術はこの先、とても役に立つでしょう。

しかし、今私達がやるべきことは水や風、土といった形の持たない自然の恵みと共生・共存していく他ありません。

その中でも、人体のおよそ60%を生物の70〜80%を占めている水。より、健康に生活していくうえで水はとても大切なものだという事はいまでもありません。

水との共生、それは私達がこの世界で生きていくためにとても大切なものだと思います。

「水の循環。私にできること。」

和歌山県立向陽中学校 二年

岡村 美悠

私たちが毎日使っている水。朝起きた時には顔を洗い、歯を磨く。ご飯を炊くときや料理を作るとき。食べ終わった食器を洗う時。お風呂やシャワー。何も気にしなくても、水道の蛇口をひねると水は出てくる。それも、そのまま飲んでもおなかを壊す心配のない安全な水が必要だけ出てくる。

これって、当たり前なのだろうか？今まで真剣に考えたことがなかった。だって、あまりに当たり前のことだったから。

水は一体どこからきて、どこに行くのだろうか。

海の水が太陽の力で蒸発して、雲になり、そして雨となって地上に降ってくる。降ってきた雨は、地表を流れ川となり、一部は地中に浸透して地下水となる。

地下水は時間をかけて地表に出てくる。人は、川の水や地下水をくみ上げて、ろ過、消毒して飲み水として利用する。

野菜や樹木、人だって、その体の中に水をたくわえている。

人間の体の70%は水でできていると昔に習ったことがある。人間は水がなくなるとすぐに死んでしまうともいう。運動をしていても水分補給はとても重要なことだ。

水は色々な形に姿を変えて地球上を循環していることが少し考えただけで分かってくる。

時には雲になり、時には人間の血液となって循環している。

大昔から続いている終わりのない循環だと思う。

でも、最近の異常気象なんかをニュースで見ると水の循環が少しずつくるってきているのではと考えせられてしまう。

水の循環の周期が加速していて、蒸発量と降水量の両方が増えてきているのではないだろうか？だから、一時的な大雨が降ったりするんではないだろうか？

開発で山が減り、植林の手入れがされなくなり、山の『保水力』が

なくなってきたかと思う。また、地球温暖化で気温が上昇し、海から蒸発する水も多くなって、その結果、一度に降る雨の量も多くなり、降った雨はすぐに海に流れ出てしまったり地下水としてたくわえられなくなっている。だから、夏に雨が降らない日が続くとうちに川が干上がってしまう。

こんな状態が進んで朝起きた時に顔を洗う水が出なくなるなど水不足になったらどうなるのだろうか。

昔の人は、夏の干ばつに農作物を守るため水争いをしたと聞く。また、大雨による洪水でたくさんの方が失われたとも聞く。人間は努力と技術で、水を利用し、治め、生きてきたけれど、使うことばかり考えてきたのではないだろうか？水を守ること。大きな地球上のゆとりとした水の循環を守ることが今の私たちが一番しなければならぬことではないだろうか？

それでは、私にできることは一体何だろうか？「無駄づかいしないこと。」「汚さないこと。」「植林活動に参加すること。」「色々できそうなことがあるような気がする。」

身近なことから始めていこうと思う。まずは、水を汚さないこと。食べ残しをしたり、ゴミを川に捨てたりしないこと。水道を出しっぱなしにしないこと。小さなことだけど実行していこうと思う。

それから、一番大切なことは、水は限りある資源で、その適当な速さを保った大きな循環の中で人間をはじめすべての生物が生きてこられていることを決して忘れないことだと思ふ。

大切な水

近畿大学附属和歌山中学校 三年 下村 恵美^{しもむら へみ}

今日、私はもう一度水について考えてみた。水の流れは主に、雨が降り、川となって海に流れ出て、海の水が蒸発し、それがまた雨となって降る、というしくみになっている。私たちは、その流れの途中の川の水を主に使っている。

水を使う私たちや、海や川に住む魚や動物たちにとって、何が重要なのか。私は森に注目した。森は、川をつくる源である。木がたくさん生えている森では、ふかふかの土が水をたくわえ、それが地下水や川になって流れ出る。つまり、森はダム役割を果たしているのだ。木が生えていないただの山では、土が水をすいこんでしまい、砂漠のように雨が降っても水たまりすら出来ない。それに木の根が土を絡め合わせて固くし、山がくずれのを防いでくれるのだ。

森は、海の生き物にも大きな影響がある。本でこんな話を読んだ。北海道のえりも岬は昔、豊かな森だった。だが、明治時代の開拓民によつて、木が燃料として切られたりして、森がなくなると、強風が土をふきとばし、雑草もはえない砂漠になってしまった。風に飛ばされた砂は海を赤茶色に変え、魚や海そうもとれなくなったのだ。そこで国と漁師たちが力を合わせて、はげ山を緑化していった。長い時間をかけて山が緑におおわれると、赤茶色だった海が少しずつ青くなつていき、海底にもつた砂のために育たなかったコンブやウニがふえ、魚ももどつてきた。森の落ち葉などは土になると養分になり、それが海へ流れるとプランクトンのえさとなりプランクトンが増え、魚も増え、海が豊かになるのだ。だから森は、海にとつてもすごく重要な役割をしているのである。最近世界中で森林が伐採されているが、世界のあちこちで海がだんだんと汚れていくような気がして悲しい。もし山を緑化するボランティア活動などがあれば、いつかそれに参加したいと思う。

森が豊かであれば、海が豊かであるとは決してかぎらない。森から

海へ流れる途中の、私たちの水の使い方がとても大事である。川に、私たちが出した汚水がたくさん流れると、もちろん川や海が汚れて生き物が住めなくなる。人間が出した毒を魚が食べて、その魚を人間が食べると、食中毒になるかもしれない。結局人間は、自分たちのためにも、川や海にごみを捨てたり、汚水を流したりせず、きれいに保たなければならぬのだ。そのためには、一人一人がちゃんと意識して、心がけることが大切だと思う。私は、食べ残しをなくそうと思った。ラーメン一杯のしるを魚が住めるようになるまでうすめるには、おふる何十杯の水がいるという。とても驚いた。

私は反省しなければならぬことがある。それは、水の無駄づかいだ。私はお風呂に入っているときや、顔や食器を洗うとき、水をたくさん使わずに思う。水には限りがあるのだから、使いすぎたはいけない。だからこれからは、ちゃんと意識して、使いすぎないように、むしろ節約するように心がけようと思った。

前にも言ったように、一人一人が意識して心がけることが大事である。大きなことはできなくても、小さいなことで、私たちにできることはたくさんあると思う。少しずついいから、実行していきたい。

川と蛍について

海南市立巽中学校 二年

大田 萌美

私の家の前には、川があります。川の水はとても冷たく、すき通っています。魚もたくさん泳いでいるし、大きな鳥も飛んできます。そんな川には、夏になると、蛍が飛んでいるところもちよくちよく見かけます。

蛍が飛ぶ川は、水がきれい、と聞きます。だから、私の家の前の川も蛍が飛ぶので、きれいな川に入るのかな、と思っていました。しかし、お父さんから聞いた話によると、昔、お父さんが子供だったころは、今よりもっとたくさんさんの蛍が、その川で飛び回っていたそうです。さらに、私の小さいころと今を比べてみても、蛍の数は少なくなっていると思います。つまり、蛍の数が年々減ってきている、ということ、昔と比べて、川がきたなくなっている、ということになると思います。

昔と比べ、川の水がきたなくなっている、ということ、すぐくいけないことだと思います。昔の人は自然を大切に生きてきたのに、少しずつ私たちは自然を大切にすることを忘れてしまっていると思います。最近では、前の川に、ゴミが落ちていたりするのをよく見かけます。ひどい時には、落としてしまったのではなく、確実に誰かが捨てたであろう、物干しざおなども見かけました。こういうのを見かけると、悲しいです。粗大ゴミとして出せば良いのに、出すのがめんどうくさいからと思つて、川などに捨てることはダメだと思いません。川の水のよごれは、私が見ても分からないと思います。けれど、たくさんさんのゴミを川に捨てていることから、きっと、前の川の水はよごれていると思います。

このままでは、前の川に、蛍がいなくなってしまうと思います。私は、夏の夜に、蛍の光を見るのがとても好きです。毎年それを楽しみにしています。しかし、前の川から蛍がいなくなってしまうえば、蛍を見る事も減ってしまうと思います。

蛍がいなくなると、私たちも悲しいですが、蛍を知らない、見たことがない、という子供が出てきたら、その子供たちは、もつとかわいそうです。

このように、蛍を知らない、という子供たちが出てこないようにするために、私たちができることをするのです。まずは、ゴミを川に捨てないで、正しい捨て方で、ゴミに出すことです。このように、私たち一人ひとりが、少しでも気にかけて、自分たちができることをやって、川を守っていくことが必要だと思います。

これから先、蛍を知らない、という子供たちが現れないように、そして、私たちもきれいな蛍を見つづけられるように、川を大切にしようと思います。川を大切にすることで、蛍の他に、魚などの生き物も守られると思います。だから、これからも、きれいな蛍が見られるように、魚をつかまえたり水遊びができるように、川の水をきれいに保てるようにしたいです。私たちの次の世代のためにも、私たちが川を守っていききたいです。

私たちにとって大切な水

近畿大学附属和歌山中学校 三年

田中 たなか 希佳 のぞか

私はよくペットボトルの水を買って飲みます。その水をとてもおおいと感じます。しかし、先日、そんな私を見て祖母が、「今は水を買って飲まなかん時代なんやなあ」としみじみとした感じで言いました。私はその言葉を聞いて驚きました。そして同時に疑問に思いました。昔はどんな水を飲んでいたのであるか。また、どうして今はその水を飲まないのだろうか。

祖母の話では、昔ほどの家庭でも井戸水で生活をしていたそうです。井戸水は、自然の水なので、夏には冷たく、冬はそれほど冷たくもならず、また飲むとおいしかったそうです。そんな井戸水は、生活が豊かになるにつれ、その豊かになった生活のために汚染されたり、また、衛生上の観点からも好ましくないという理由で次第に飲まれなくなり、水道も完備され、現在の状況に至っているとのことでした。

私は物心がついた頃には既にペットボトルが市販されていたので、井戸水を飲んだことがありません。水道水も、家の蛇口には浄水器が付いているので、そのままの水道水をじかに飲む機会はあまりありませんが、何か少し薬っぽい味がした記憶があります。

今私たちが、昔の人々がおいしく飲んでいた井戸水を飲めないという事は、工業化し、便利な社会を手に入れた代償として、何かとても大切なものを失ってしまったような気がしてなりません。そしてそれは何も飲み水に限られたことではない気がするのです。例えば、昔は泳げた川が今ではもう泳げないという話はよく耳にします。でも、川は必ず海につながっています。昔泳げたきれいな川の水が注ぐ海はきれいだっただけだと思いません。では、今はもう泳げなくなってしまう川の水が注いでいる海はどうでしょう。当然、汚れてしまっていると思いません。幸い、日本には汚れがはげしいという理由で、遊泳が禁止されている海水浴場はまだないと思います。しかし今のままの生活をそのまま続けていて、果たして大丈夫なのでしょうか。今が豊かで、そ

して便利ならばそれでいいのでしょうか。私は何か間違っている気がしてなりません。便利さや豊かさを追求した結果として、井戸水が飲めなくなり、川で泳げなくなつたのではないのでしょうか。そうであるなら、今何も考えずにこの生活を続けていけば、私たちの子供や子孫の世代になると、海でさえ泳げなくなる可能性もあると思うのです。そして、そんな汚れた海でとれる魚介を食することも危険になるのではないのでしょうか。

そう考えると、今からでも私たちが取り組めること、取り組まなければならぬ事はたくさんあると思います。私一人の力は微々たるものかもしれませんが、みんなと話し合い協力を求めていけば、取り組みは大きなものになると思います。今こそみんな力を合わせ水に関し、また私たちが取りまく環境について考えてみる時なのではないでしょうか。

水不足などの環境問題

近畿大学附属和歌山中学校 二年

谷垣 たにがき 南帆 みなほ

世界では今、地球環境の悪化により水不足が相次いでいる。この瞬間にも、アジアやアフリカなどでは安全な飲み水を確保できない人がいるのだ。その数はおよそ十二億人とされ、世界人口に換算すると、約五分の一に相当するそうだ。また、不衛生な水しか得られず毎日六千人もの子供たちが命を落としているのも今の世界の現状だ。

また、二〇二五年には人口増加に伴って世界人口の約三分の二が水不足におちいり、また二〇五〇年には地球全体での水不足が予測されている。蛇口をひねればキレイな水が当たり前のように出てくる・そんな恵まれた環境にいる私たちにとっては想像もできないような世界があるのです。

地球上にある水の九十九パーセントは海水で、淡水はわずか二パーセント、その淡水の中でも七十パーセントは氷河で、残り三十パーセントが地下水となっている。そう、私たち陸上生物が利用できる水は、地球上に存在する水のわずか〇・〇一パーセントにしか過ぎないのだ。例えば、地球上の水が風呂桶一杯分ならば、私たちが使える水はたったの一滴。この一滴の水を、すべての陸上生物が分かち合って生きているのだ。この水がなくなってしまうと、農作物もつくれなくなって、食料も不足するだろう。最終的には、すべての生物が絶滅してしまう恐れもあるとまで言われている。

二十世紀は世界では、石油などのエネルギー資源をめぐる争いが絶えなかったが、二十一世紀には世界の人々が水をめぐって争うことになるだろうと言われている。水は私たちが生きていくうえで必要不可欠なものであるからこそ、もしも生活に必要な量の水が確保できない状況になれば、私たちは生きるために水を奪い合う争いを始めてしまうとも言われているのだ。今や水不足は、地球に生きている我々一人一人にとって、重大な問題となってきている。とはいえ、日本に住んでいると、世界の水不足が身近な問題として捉えられないが、現

に日本が輸入している多くの工業製品、農業製品、農業製品の生産過程では、莫大な量の水が使われていることから、これが日本人の生活と無関係ではあり得ない問題であることが分かる。

私たち人類は、今までの開発優先のやり方を改め、どうすれば開発と環境保全のバランスを保っていくことができるかを、真剣に考えていかなければならない。そして、これ以上水不足などの地球環境の問題を悪化させないために、この地球に暮らすすべての人々が自分できるとできることから実行に移すことが大切である。普段の生活の中で私たちにできることはたくさんある。私たち一人一人にできることはほんのささいなことかもしれない。しかし、この地球に暮らす何十億人もの人たちが、それぞれ環境に配慮した生活をすれば、大きな効果が期待できるはずである。水環境の大切さ、そして地球環境の大きさを理解し、一人一人ができることから地球に配慮した生活をする事が大切なのである。

大切な水

和歌山県立田辺中学校 一年

中川 朔良 なかがわ さくら

「また、出しっぱなし」

そう言いながら、母は歯みがきをしている私のとなりから、水道のじや口をしめにきます。私には、歯をみがく時やお風呂に入ってかみの毛や体を洗う時、ついつい水を出しっぱなしにする悪いくせがあり、よく母に注意されます。なぜ出しっぱなしにするのか？理由を聞かれても特になく、多分ただじや口を閉めるのが面倒なだけなのかもしれない。そんな私に、つい先日母がこんな事を言いました。

「どれだけの水を捨てているか、自分の目で見てみなさい。」

母は、私がお風呂に入っている間、シャワーから出続けている水を、使っていない間浴そうにためてみると言うのです。私は、仕方なく言われた通り、空の浴そうにシャワーの水をためながら、体を洗ったりかみの毛を洗ったりしました。すべて洗い終えた時、空っぽだった浴そうには、半分以上のお湯がたまっています、おどろきました。これだけの水を、私は毎日捨て続けていたのです。じや口をひねれば、水が出る、それが当たり前だに思っていて、どんどん排水口に流れていく水に何も感じなくなっていました。

世界には十二億人、日本の人口の約十倍の人が水不足で困っています。地球には、たくさん水があるように思いますが、その大部分の九十八%が、私達が飲む事の出来ない海水です。飲む事が出来る二%の水も、そのうちの七十%が北極などの分厚い氷河です。だから、飲み水として利用できるのは、地球上の水のたった〇・〇一%しかないのです。その水も今、温暖化などのえいきょうもあって、どんどん減ってきているそうです。そんな話を聞いても、明日の飲み水を心配する日本人はきつと思いません。正直私自身もその一人でした。

ある国では、飲み水を得るために、小さな子どもが十キロ程離れた水くみ場まで、毎日歩いて出かけて行く。そんなニュースを見ても、「大変だな。」とか、「日本人で良かった。」などと、お気楽で、他人

事にしか思っていないませんでした。

日本は豊かで、水や食べ物に困るという事はまずありません。それは、とても幸せな事なのかもしれませんが、その分水の大切さやありがたみを、あまり実感する事がありません。また、水不足で困っている国の人達の事を、自分の事のようにとらえて、深く考えたりもしません。

どんな資源にも、必ず限りはあります。じや口をひねれば、出てくる水にも限りはあるのです。私達の少しの努力と、心がけで、その限りある水の期限を少しでも延ばす事ができるのではないでしょうか。私のように、水を出しっぱなしにする人は、その水を何かにためて、自分自身の目で確かめてみてください。きっと考えが変わるはず。考えが変われば、行動も変わってきます。一回一回じや口を閉める事なんて、大きな宿題をする事に比べれば、とても楽で簡単な事です。一人一人が変われば、明日の地球を変える事が出来るかもしれません。

その水、大丈夫？

海南市立巽中学校 一年

中嶋 なかしま 英二 えいじ

僕は、ゴールデンウィークの間に日置川町えびね温泉に水を汲みに行きました。その温泉はすぐく山奥でもきれいな場所でした。僕の家の近くには川があります。しかし、日置川町の川とは比べることができないくらい家の近くの川はにごつていました。人が生活をしてりして川はどんどん汚れていきます。ですが、人間が普段気を付けて生活をしていけば川は汚れなくてすむと思いました。人が少ない山奥では、山や川は汚れてなくて自然のまま残っていました。川の底はすき通っておりとてもきれいでした。

みなさんは最近になって心からきれいだと思える水を見たことがありますか。自分たちが普段飲んでいる水道水は、本当にきれいですか。たしかにゴミが浮かんでいなかったりにごつていないかもしれませんが、それが本当にきれいだと言うことはできないと思います。

僕は、水に対する「きれい」という言葉には、2種類あると思います。1つ目は、前の文にも書いたゴミなどが浮いたりせずにごつてもいない人間が人間のために「ろか」した水に対して使う「きれい」という言葉です。2つ目は、日置川町にある川の水のように、自然のまま人間が手を加えていない天然の水に対して使う「きれい」という言葉です。

普段自分たちが水に対して使う「きれい」という言葉は、どっちの意味の方が多いでしょうか。僕は、人間が手を加えた水に対して使う「きれい」の方が多いと思います。

今、みんなが「きれいな水」とか「汚い水」といつて分けている水は、自然から見れば両方汚い水だと思いました。人間は自分たちの手で環境を破壊してきました。その結果、人間たちだけでなく地球に住む他の生物たちにも迷惑をかけてきました。

水は、人間だけが必要ではなくて、他の動物たちや植物たちにとつても生きる上で必要なものです。なので、人間だけが好き勝手に使っ

ていいものではありません。僕は、日置川町で見た川の水を見てなぜか少し感動しました。自分でもなぜ感動したか、わかりませんが今の環境が悪化している中で、まだこんなに純粋な水があるのだなあと思いました。

いつも通りに生活をしている中で使っている水はたしかに大切でどんなことにも使っている水です。しかし、世の中にはそれよりも美しい大切な水があるということを僕は初めて知り、とてもおどろきました。僕たちが、普段の生活で使っている水は、使うことを目的として人間が手を加えた水です。それに比べて日置川の川の水は、森の動物や鳥たちが心地よく暮らしている集まるとも目的を持っている川でした。それは、その川の水がそれほどまでに美しいからだと思います。

僕は、自分たちが生活をしていく中で使っている水は本当に美しいと自信を持っていえる水なのかなあと思いました。

「地球市民が地球を守る」

近畿大学附属和歌山中学校 二年

堀口 彩佳

「水」というのは、遠い昔から生きるためになくってはならないものだと思えます。

私たちの日常生活の中に水は色々なところで目にします。例えば料理を作るキッチン、朝顔を洗う洗面所、お風呂、トイレなど生活の主役であるのです。

このように、あちらこちらで活躍している水がもし枯渇したら、そう、当たり前前に蛇口をひねれば出てくる水がなくなったら私たちの生活はたちまち成り立たなくなりそうです。もちろん人間をはじめとする動物の全ての「生」が失われてしまうでしょう。

私たち人間は「水がなくなる」という危機感を常に持って生活をしていかなければいけないという義務を課されているように思えてなりません。

地球上に占める水の割合は非常に多くあると安全視しがちですが大半は海水であり、実際に動植物が生きる上で必要な真水は僅かなのです。

しかし、その僅かな水資源を私たちは日常生活の中で大量に汚しています。

河川へのゴミの投棄、生活排水のたれ流し、ありとあらゆる方法で水質汚染を続けているのです。

日本は世界の中でもトップレベルの浄水技術を持っています。水道の蛇口から出る水も直接飲用できる国はそう多くありません。それだけ水を浄化する事は技術的にもまたコスト面から見ても非常に難しいのです。

水を汚す事は簡単ですが、きれいにする事は汚す以上の労力が必要とする事を理解しておかなくてはなりません。

日本が環境先進国として、まず自国の水質浄化に努めるべきだと私は考えます。世界の国々に水資源の大切さを広めるにはまず日本人が

実践して身をもって理解する事が一番の近道であると思えます。そう、私たち日本人は当たり前だと思つて毎日最高水準の水を使っているのです。最高水準の技術を持つのは水の浄化技術だけではなく、普段の生活において何気なく使っている物、あるいは口にしてる食品などにも広がっていきます。

それら私たちが快適な生活をするためのツールにも必ず水が密接に関わっているのです。そうして技術を享受している私たちがまず、水質浄化のための活動をしなければならぬ義務があると思えます。

そのためには、まず私たちが身近にできる事から始めていけば良いのではないのでしょうか。私が家庭で実践している事、それは風呂の残り湯を洗濯や庭の散水に利用し、無駄を省いています。それと食器洗いや風呂洗いなどで使う洗剤を環境にやさしい物を選んで効率良く使っています。私の実践できることは、ほんの僅かかもしれませんが、しかし、ひとつひとつの積み重ねが大きな力になると信じてこれからも続けていきたいと思えます。

次代を担う私たちの責任は重いと感じています。「地球市民」の一入として、この地球をより美しく、より優しいものにしていくことを誓います。

守りたいもの

近畿大学附属和歌山中学校 三年 三浦 雛

毎年、私の家族は、高知県の四万十川の近くにある河口でキャンプをする。目的はたった一つ。波乗りだ。自宅の大阪から高知県まで、二リットルのペットボトルなど、たくさんの荷物を積み込んで、車で六、七時間ほどかかる。より良い波と美しい海を求めて大移動するのだ。しかしながら、私たちが滞在するその場所は、人工的なキャンプ場ではないので、施設は何もない。だから、水がないとどれだけ不便なのか、ということを知らされる。かろうじて、トイレとコインシャワーはあるが、トイレの水道の水は飲料水ではない。ただ、水はいろいろなことに使用することができるので、その水を汲むのだ。これは、子どもである私たちにでもできることなので、大人たちはほとんど私たちに任せてしまう。水を汲むのは一苦労だ。たくさんのペットボトルやポリタンクを持って、テントからしばらく歩き、河口にかかっている小さな橋を渡ると、そこはもう太平洋に面した砂浜が広がる。この海は、透き通っていて、沖に出ても海の底や、泳ぐ魚が眺めることができるとても美しい海だ。この美しさに惹かれて、波に惹かれて、私たちは長い時間をかけて大移動してやってくるのだ。しばらく進むと、丘高い所に階段が見え、上がっていくと、トイレとコインシャワーがある建物があるのだ。キャンプ地からの距離は一〇〇メートル位だが、その間を何度も往復するのは、とても大変で、とても面倒だ。

私たちは毎日、多くの水を使用している。日本人は暮らしの中で、一日に三〇〇リットルもの水を使用しているとされている。その中で、飲み水は三リットル、つまり一%。残りの九十九%は掃除、洗濯など、生活用水に使用されているということになる。

何かのテレビ番組で言っていた「私たちが使用している二分間のシャワーの量は、アフリカに住む人達が一日に使用する水の量と同じ」と。知らなかった。あまりにも違いすぎて、どこか関係のない話に思

えていた。高知のコインシャワーは三分間。勢いよく流れっぱなしだ。それでも、シャワーは心ゆくまでできないし、ボードを洗ってウエットに付いた砂を洗い流すのが関の山だ。そして、「早くお風呂に入りたい。」と思ったり、足に少し砂が付いただけで、汲んできた水で洗い流していた。無くなったら、少し面倒でもまた汲みに行けばいい、ただそんな風に思っていた。

とても大切な「水」だが、私たちは水道の蛇口をひねると、いつでも「水」という自然の恵みを受け取ることができるのだ。普段は何とも思っていない、この「蛇口をひねれば水が出てくる」という光景が、私たちにとって当たり前になっている為、あの道のりを重いペットボトルやポリタンクを持って往復することには、不便さを感じずにはいられなかった。そんな時にふとあのテレビの話思い出した。水に恵まれている国に住む私たちがだけが行っていることなのだ。水を運ぶ面倒くささよりも、節水に気付いたのだ。「贅沢」なのだ。これはまぎれもなく「贅沢」なのだ。そう考えると、キャンプ地でせっせと汲みに行く水も少しづつ大切に使う様になった。もちろん、何度も往復するのはイヤなのだが、何よりも、少しの気配りで、たくさんの水を節水することができるということがわかったからだ。私だけでなく、家族も、友人も、他たくさんの人たちが少しずつ気を配れば、一日に三〇〇リットルも水を使わなければ・・・そうすれば、膨大な量の節水へとつながる事になる。水に恵まれた国に生まれたのだからこそ、「水」を大切にすべきなのだ。それは、私が大好きなあの海の美しさを守ることにもなるのだから。

「身近だけど大切なもの」

近畿大学附属和歌山中学校 一年

池田 奈瑚

「自分にとって水とは。」

と自問してみたら、私は常に身近にあり不自由の感じたことのないものだと答えるだろう。なぜなら家の中では、じゃ口をひねれば、すぐに水は出てくるし、外の公園に行けば水飲み場があり、いつでも安心して水を飲むことができるからである。

さて、ここでもう少し深く考えてみた。ひとたび世界に目を向けると水不足に悩んでいる国が、想像以上に多いことに、おどろかさされる。先日テレビで見た中には、私より小さい女の子が学校にもいけずに、水くみに一日を費やすという映像があった。他にも水不足で悩んでいる所では、雨水をそのまま飲む国もあるし、もつとひどい場合は川の水やどろ水をそのまま飲む国もある。また逆に水が多すぎて困っている国もある。

日本のように地域の格差がなく、全国的に水に恵まれている国は世界でもめずらしい。今の日本では、水に困る生活を想像することすら難しい。水に対してあまり関心がない日本人が自分も含めて多数派である。

水は言うまでもなく、生きていくために非常に大切なもの、必要不可欠なものである。にもかかわらず、はつきり言って自分は水に対して、全く無関心であった。だから、日本以外の国の子ども達が水に対して、どういう思いがあるのかを直に聞いてみたいと思った。きっと、「水は大切なものだよ。」

「きれいで、おいしい水が飲みたい。」

「農作物を育てるのに水が足りないんだ。」

「いつも水害で困っている。」

という、水に対する苦勞や苦難の思いが言葉となって返ってくるであろう。

日本が水のある国としてできることは何かと考えてみた。水不足の

ために苦しんでいる人達のために、井戸を掘ってみたり、ダムを建設したり、あるいは水害で困っている人達のための堤防を造ったら良いと思う。今も、そのような活動を行っていることは聞いているが、ますますその活動の輪が広がり、世界のみなが水のある幸せを手に入れることができればと願う。

ここまで考えてみて、改めてもう一度自問してみた。

「自分にとって水とは。」

それは、身近にあり現時点で不自由を感じないものだけれど、とても大切な、またこれからも大切にしていかなければならないものである。更に、不自由なく水を使えることに対し、感謝をしないとけないと思つた。

命をつなぐ水

近畿大学附属和歌山中学校 二年

小出 成実こいで なるみ

私達の住む日本では水道水を飲むことができます。それだけ安全で水に恵まれているということです。でも世界のある国では水道や井戸が無く、きれいな水を飲むことができません。だから沼のような泥の混じった大きな水たまりの水を飲んで生活しているということをテレビを見て知りました。その時、私はとてもショックでした。今まで蛇口をひねると水が出てくるのが当たり前だと思っていた自分が恥ずかしく思いました。

私の見たテレビ番組では自分よりも年下の子供が大きなタンクを担いで長い道をひたすら歩いて、貴重な泥水を家まで運んでいました。それはとても大変で、家族全員が一日を過ごすにはこれを朝と晩と二回繰り返し運んでこななければいけません。そして、この限られた泥水の中で生活している人々を見てとても驚きました。

朝起きたらまず、子供たちは水たまりまで泥水を汲みに行きます。そして家まで運び終わったら少量の泥水を片手に、交代で歯磨きをします。当然、歯磨き粉なんて無いから泥水と毛先の広がつたハブラシだけで磨きます。そして、洗濯するのも泥水で、きれいに手で洗います。この洗濯で残った水を子供たちはシャンプー代わりにして頭や顔を洗うのです。食事をするのも泥水です。水が無いので、ごはんを作る時は鍋に泥水を入れて煮たり茹でたりします。

この番組の中で印象に残ったシーンがあります。それは、私たちがお茶を飲む時のように子供たちが泥水をごくごくと平気で飲んでるところでした。これでお腹をこわしたりしないのかとても心配になりました。他にも村で唯一ある学校では給食が無く、家の貧しい子供たちは泥水だけを飲んで過ごしていました。私だったらこんな生活には耐えられないと思います。

同じ地球に住んでいるのに、水に恵まれている国とそうでない国とがあり、それによってこんなにも生活が違うとは思いませんでした。

私たちは、水が飲みたい時には蛇口をひねって飲むことができます。洗濯も歯磨きもたくさんのお水を使ってきれいに洗います。他にも、お風呂では浴槽にたくさんのお水を入れて沸かします。プールなんてそれの何百倍もの水を使います。全て私たちには何の変わりも無い当たり前のことです。でも、これらの水は実はとても大切な水だったので。

このテレビ番組を見て、水の大切さがよく分かりました。

歯磨きをしている時や、体や顔を洗っている時には水を出しっぱなしにしないとか、お風呂に入った後の浴槽の水は捨てずに洗濯の水に使うようにする。このように、水についてよく考えてから使っていくことが大事だと思います。

これからは、水を無駄遣いせず、いつも感謝の気持ちを持って大切に使うていきたいと思っています。

水不足を防ぐために

和歌山県立桐蔭中学校 一年 瀬戸 千裕

水は、人間が生活するにあたって、必要なものです。お風呂のお湯で約三〇〇リットル、洗濯に約三〇〇〜八〇リットル。その他にも、生活をしていくのに水をたくさん使います。水がないと、お風呂に入れないし、洗濯もできません。水のない生活はとても不便です。日本では、一日一人あたりの家庭生活で消費する水の量が約三七五リットルと、世界の国々の中では多い方です。

しかし今、水をムダづかいする人がたくさんいます。歯みがきをしている間に水を出しっぱなしにしたり、お風呂でシャンプーをしている間にシャワーの水を出しっぱなしにしたり。ただ生活をするだけでもたくさんのお水を使うのに、その上、水をムダづかいしたら、環境にさらに悪影響をもたらしてしまいます。

外国には、水不足により苦しんでいる国がたくさんあります。アフリカのケニアも、水不足により苦しんでいる国の一つです。ケニアでは、一日たったの五リットルで生活していかなくてはいけないという村も存在します。日本の七十五分の一です。水が不足している地域では、水をめぐる争いが起きているところもあるのです。日本では絶対に起きないことが外国では起こっているのです。

また、日本は、その少ない水を代わりに使用しているともいえるのです。なぜなら、日本は消費している食料の六割を輸入しているからです。日本へ食料を輸出している国は、大変貴重である水を使用して、食料をつくります。見方をかえると、日本はかなりの量の水を輸入しているということになります。本来なら生きていくための飲み水を、農業で使い、その農業によって出来たものを日本人が輸入しているという事は、日本人が外国の飲み水を使用しているともいえるのです。

そもそも、なぜ水不足になってしまったのでしょうか。水不足の最大の原因は、人口増加です。人が急激に増えたため、水の消費量も比例して多くなったのです。二〇世紀の一〇〇年間で、世界で使用され

る水の量が六倍にも増えてしまいました。人が増えると、もちろん食料もたくさん作らなくてはいけません。そのため、水がさらに必要になります。多くの地下水をくみ上げることで、水がなくなってしまうたり、大きく減少してしまい、水不足につながってしまうのです。

また、自然災害が要因の一つにあげられます。干ばつは、水不足の大きな原因となります。地球温暖化による影響で、干ばつが発生しやすくなっています。水不足の問題は、実はすでに地球全体の問題となっているのです。

水不足を防ぐために、まずは自分の生活から見直していくべきだと思います。自分の生活の中で、水のムダづかいをなくし、節水していくことは、水不足を防ぐ第一歩だと思います。一人一人が節水を心がければ、水不足の問題も解決に近づけるはずです。

「これからの水」

田辺市立上秋津中学校 三年

西中 亮人

日本は、世界に誇れる程、水が豊富な国である。飲み水には困らない日々を昔から過ごしている。しかし最近の日本は、豊富な水を少しずつ汚しつつある。その為に大阪や東京などといった大きな都市部の水道水は、安心して飲む事ができない。最新の浄化装置や薬などを使用して人体には影響がないきれいな水になっているが、安心しておいしく飲むことができるかと聞かれれば、僕ははっきりと飲めるとは言えない。少しこういう水の浄化や味について僕自身の体験談を二例、紹介したいと思う。

一つ目は、夏休みに大阪から来ていた従兄弟二人とテーブルテニスをしていて最中、のどがかわいたので台所に従兄弟とカルピスを作りに行った。コップの中にカルピスの原液を入れて、水道水から水を入れようとした時、従兄弟が、

「うわー、水道水からだつたらきたないし、まずいでー!」

と言われて少し驚いた。僕自身その時は小さくて、大阪の水は汚いという事は知らなかった。その場は、和歌山の水は水道水でも飲めると説明して、驚きながら恐る恐るカルピスを飲んで、従兄弟は、

「ほんまや。おいしい。」

と言って飲んでいた。

二つ目の体験談は、僕が、大阪に行った時の事だ。大阪にいるおばちゃんの家泊まっていた、のどがかわいたのでついつい水道から水を飲んでみると、いつも飲んでる和歌山の水よりもまずくて鉄みtainな味がすぐに吐き出してしまった。その時おばちゃんが、

「亮人ー、水道水から水飲んだらあかんで。」

と言われた。僕は、

「言うのが、ちよつと遅いよー!」

と苦笑いしながら返事をした。僕はあの時飲んだ水の味は、いまだにはっきりと憶えている。

この二つの体験が、都市部の水を安心しておいしく飲むことができないという理由である。こういった水をきれいにするために大量の薬を使ったりするのもいいが、根本的な解決にはなっていない。元の水をきれいにする為には、水質汚濁の原因になっている生活排水や産業廃棄物による土壌汚染などを防ぐ事が大切な事である。実際に工場排水による有機水銀が原因の水俣病やカドミウムが原因のイタイイタイ病など今なお苦しみ続けている人達がたくさんいる。こんな悲しいことを二度と犯さないように心掛けていかなくてはいけない。

人間の体重の六〇%〜七〇%が水分でその水分は、栄養分や酸素の運搬、老廃物の排出といった生命を維持していく上で大変必要なものである。その他、生活用水、公共用水、産業用水としても利用されており、僕達の生活はもちろん地球上で必要不可欠なものである。

こんなすばらしい水が汚れつつあるのはまぎれもなく人間のせいだ。僕達の世代ではこの水を少しづつでもいいから確実に回復させていけるよう人間みんな協力できるようにしていきたい。

どの国にも大切に貴重な水

近畿大学附属和歌山中学校 三年

野間 俊亮

僕は、今回、普段は蛇口をひねるだけで簡単に出てくる水について、そんな水が一体どれだけ大切なのかを書きました。

僕は、あるとき世界地図を見ていて、水の豊かな国と、そうではない国についてどんな違いがあるのかと思っていたことがこの作文を書いたきっかけです。

日本は世界の中でも降水量が多く、比較的、水が豊かで、あまり水には困らないような国です。しかし、そんな日本は今、世界一の水の輸入国と言われています。

僕は、水が豊かなのに、なぜ日本が世界一多く水を輸入しているのか全く分かりませんでした。なぜ、日本が世界一の水の輸入国なのかと言うと、まず、日本は、外国から食物をたくさん輸入しています。その輸入している野菜や穀物、他の食べ物を育てたり、つくったりするために、水を欠かすことはできません。これは、日本が輸入している食物を作るために使った水を食物といっしょに輸入しているのと同じと言えます。

僕はこれについて、食物の輸入イコール水の輸入ということとでもおどろきました。食物を育てるためにも水は欠かせないと分かりました。

次に、降水量の少ない国についてです。これについては、水が豊かな所と本当に水のない所の二つがありました。

例えば、サウジアラビアやクウェートなどは砂漠地帯なのに水には困らないようです。砂漠地帯なのに水に困らないということは、オアシスや地下から水を引いているのかと思いましたが、それは違います。水に困っていない理由は、国内でたくさん取れる石油を外国に売り、そのお金で海水を真水にかえることのできる機械を導入したことです。そうすることで水をたくさんつくることのできるそうです。でも、それには、高いお金が必要なので、日本の水よりも値段が

高いそうです。

このことから、水には困ってなくても、たくさん費用がいるということが分かりました。

最後に、深刻な水不足で、本当に水の無い国についてです。そんな国では、水はとても貴重なものです。

例えば、毎日のように遠くまで水をくみにいって、重い水を何回も運んできたりする所があります。そんな所では、水をくむ仕事などで、学校に行けないし、水もあまりきれいな水とは言えません。

他には、ドラム缶やバケツに、雨水などの水をためて、その水を使ったり飲んだりするような国もあるそうです。やはり、その水もきれいな水とは言えません。

このような国々では、水は本当に貴重なものなのだと分かりました。しかし、僕たちは今までそんな国々があるのを知らないかのように毎日何百リットルもの水を使ってきました。

それに、どの国も水をつくるためには高いお金をはらっています。そんな水を大切に使うために例えば、節水があると思います。節水をすれば、一日に使う水も少しでも減らすことができます。

僕は今回の作文を通して、水は、どの国でも大切に貴重なものなのだと分かりました。

これからも水を大切にしていこうと思います。

第32回「全日本中学生水の作文コンクール」概要

第34回「水の週間」の行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

1 応募要領

- ①テーマ・・・「水について考える」（題名は自由）
- ②対象・・・中学生（中学生と同じ年齢の方を含む。）
- ③原稿枚数・・・400字詰め原稿用紙4枚以内、日本語で表記された個人作品に限る。
題名・学校名・学年・氏名（ふりがな）を記入する。
- ④あて先・・・和歌山県庁 地域政策課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL 073(441)2423
- ⑤募集期間・・・平成22年5月14日締切り
- ⑥版权等・・・○応募作文は自作の未発表のものに限る。
○応募作品の著作権は、主催者に帰属する。
○応募作文の返却は行わない。

2 応募状況

応募 学校数	応募 総数	学年別		
		1年	2年	3年
校	編	編	編	編
11	837	275	274	288

3 審査

応募作文837編を対象に、和歌山県審査において、優秀賞3編、入選10編佳作5編あわせて18編の入賞作文を決定。

（協力 和歌山市中学校国語教育研究会）


4 表彰

(1) 賞および賞品

賞	賞品
優秀賞	賞状、図書券
入選	賞状、図書券
佳作	賞状、図書券

(2) 表彰式

優秀賞の受賞者を平成22年8月5日、和歌山県公館において表彰



確かに
知らないなあ...。

この水って、
どこから
どうやってここまで
流れてくるのかなあ？

この機会に
確認して
みようよ！

知っているようで意外と知らない、
身近な水のことについて

水の安心・安全を
考えよう！

水は限りある貴重な資源です。

8月1日は「水の日」 8月1日~7日は「水の週間」

「水の日」「水の週間」に関する行事等の情報は、国土交通省ホームページ (<http://www.mlit.go.jp/tochimizushigen/mizsei/index.html>)、
もしくは水資源機構ホームページ (<http://www.water.go.jp/honsya/honsya/torikumi/waterweek/index.html>) をご覧ください。

国土交通省・都道府県・水の週間実行委員会